

「第17回釜ヶ崎講座・講演のつどい」

福島原発事故とは何か

(原発と下請被曝労働を考える)

2011年3月11日の「東日本大震災」、地震と津波による多くの被害がもたらされました。地震は福島原子力発電所の破壊、放射性物質漏れという最悪の事態をも引き起こすに至り、「原発安全神話」の崩壊を万人の前にさらすに至りました。

1年を迎えようとする中で、福島原発事故は「終焉」を言われながらも事態は、まだ収まらず、問題は大きく横たわっています。従来から、原発の炉内仕事は下請けが担っており、釜ヶ崎の労働者も多く下請け労働についているといわれてきました。事故以降の復旧仕事のもっとも危険なところ、当然被曝も予想される労働に従事しています。

前回、第16回講演のつどいで震災の支援復興活動と釜ヶ崎との関係を考えてきました。今回は震災のもうひとつの大きな課題「福島原発事故とはなんだった」のかを、今一度基本的なところで学習し、自らの被曝や、「下請け被曝労働につく可能性もある」ことを考えていきます。

反原発の市民運動を長らく精力的に行っている「はんげんぱつ新聞編集委員」の末田さんのお話を伺います。ともに原発問題を考えていきませんか。参加をお願いいたします

日時 2012年4月21日(土) 午後6時30分開演
講師 末田一秀さん(はんげんぱつ新聞編集委員)
会場 太子福祉館 大阪市西成区太子1丁目4-3 3階 集会所
(1階は100円ショップのFLET'S)
(地下鉄御堂筋線・堺筋線「動物園前」駅7号出口、
JR環状線「新今宮駅」下車5分)

資料代 500円

釜ヶ崎講座

大阪港郵便局私書箱40号
大阪市西成区萩之茶屋1-9-7
釜ヶ崎日雇労働組合気付
事務局 090-2063-7704